

Canon EF LENS

TS-E50mm f/2.8L MACRO

TS-E90mm f/2.8L MACRO

TS-E135mm f/4L MACRO



JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンTS-E50mm F2.8L MACRO、キヤノンTS-E90mm F2.8L MACRO、キヤノンTS-E135mm F4L MACROは、0.5倍までの近接（マクロ）撮影ができるEOSカメラ用アオリ（ティルト・シフト）機構搭載レンズです*。

カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

* 機種によって、操作の向きや動きが一部異なります。

各部の名称とティルト操作については、各々の機種に対応したページをご覧ください。

- TS-E50mm F2.8L MACRO

各部の名称：P4、P5

ティルト操作：P14、P15

- TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACRO

各部の名称：P6、P7

ティルト操作：P16、P17

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。



警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを外したまま、レンズまたはレンズを付けたカメラを日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。



注意

傷害を負う可能性がある内容です。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れないでください。けがの原因となります。
- レンズを着脱するときやレボルピング操作・TSLレボルピング操作をするときは、必ずティルト・シフトしていない状態に固定してください。けがの原因となります。
- ティルト操作・シフト操作をするときは、ティルト機構・シフト機構の突き出る部分に触れないでください。けがの原因となります。

注意

物的損害を負う可能性がある内容です。

- 直射日光下の車の中など、高温になるところにレンズを放置しないでください。故障の原因となることがあります。
- 各つまみは無理に回さないでください。故障の原因となります。
- レンズを着脱するときやレボルピング操作をするときは、必ずティルト・シフトしていない状態に固定してください。故障の原因となります。

一般的なご注意

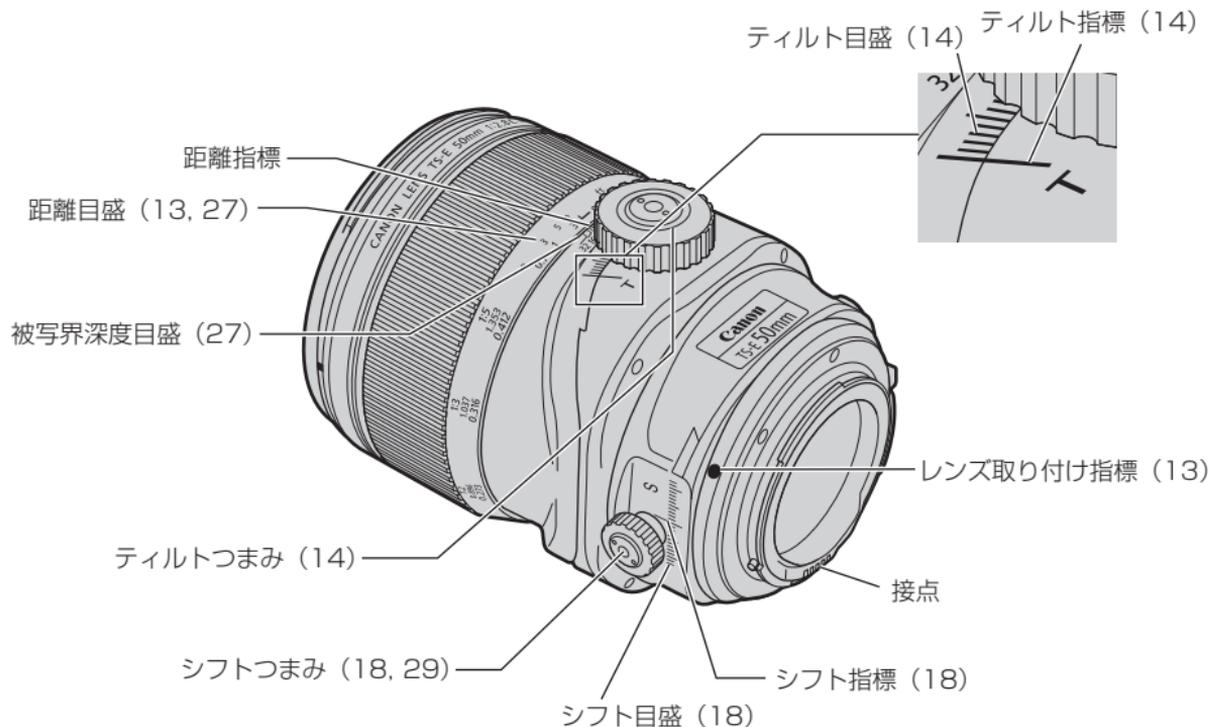
取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

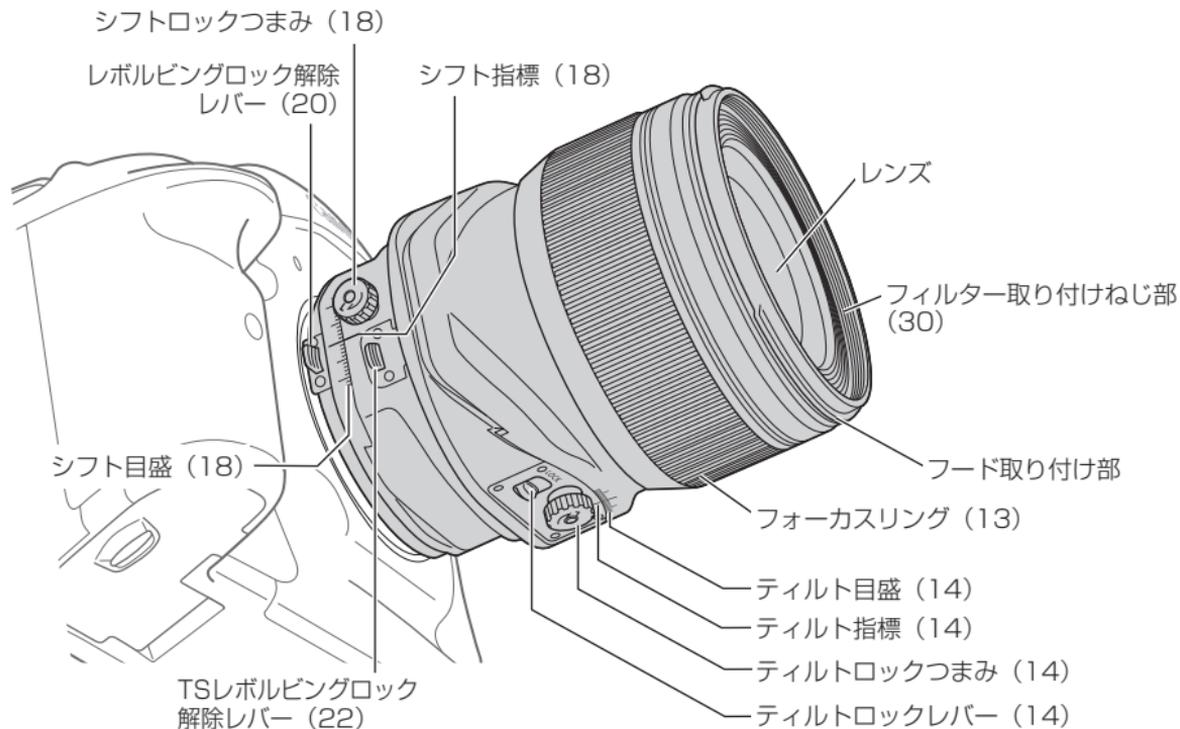
- このレンズの機能を有効に活用していただくためには、次の条件での撮影をおすすめします。
 - ・ ファインダー視野率約100%のEOSカメラの使用
 - ・ ライブビューの使用（画面にグリッドを表示）
 - ・ 外部モニターの使用
 - ・ 三脚の使用
 - ・ 方眼マットのフォーカシングスクリーンの使用
 - ・ 単体露出計の使用
 - フードだけではレンズに入射する有害光線をカットする効果が少ないので、板などを併用することをおすすめします。
 - Digital Photo Professionalを用いてレンズ補正（レンズ収差補正、デジタルレンズオプティマイザなど）を行う場合*、レポルピングやTSレポルピングはロックされた状態、またはクリックの位置での撮影をおすすめします。
- *対応するカメラ：EOS 6D Mark II（2017年8月現在）

各部の名称 (TS-E50mm F2.8L MACRO)



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

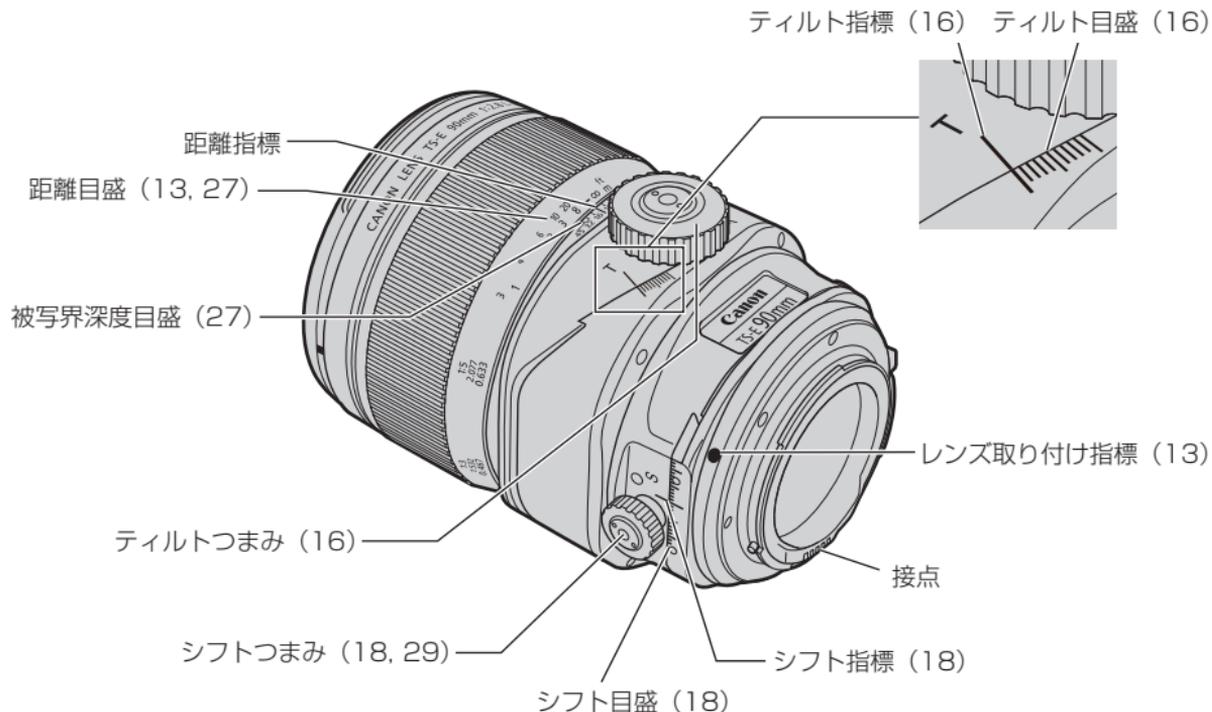
各部の名称 (TS-E50mm F2.8L MACRO)



● (**) の**部は参照ページを示しています。

イラストは下から見上げた図です。

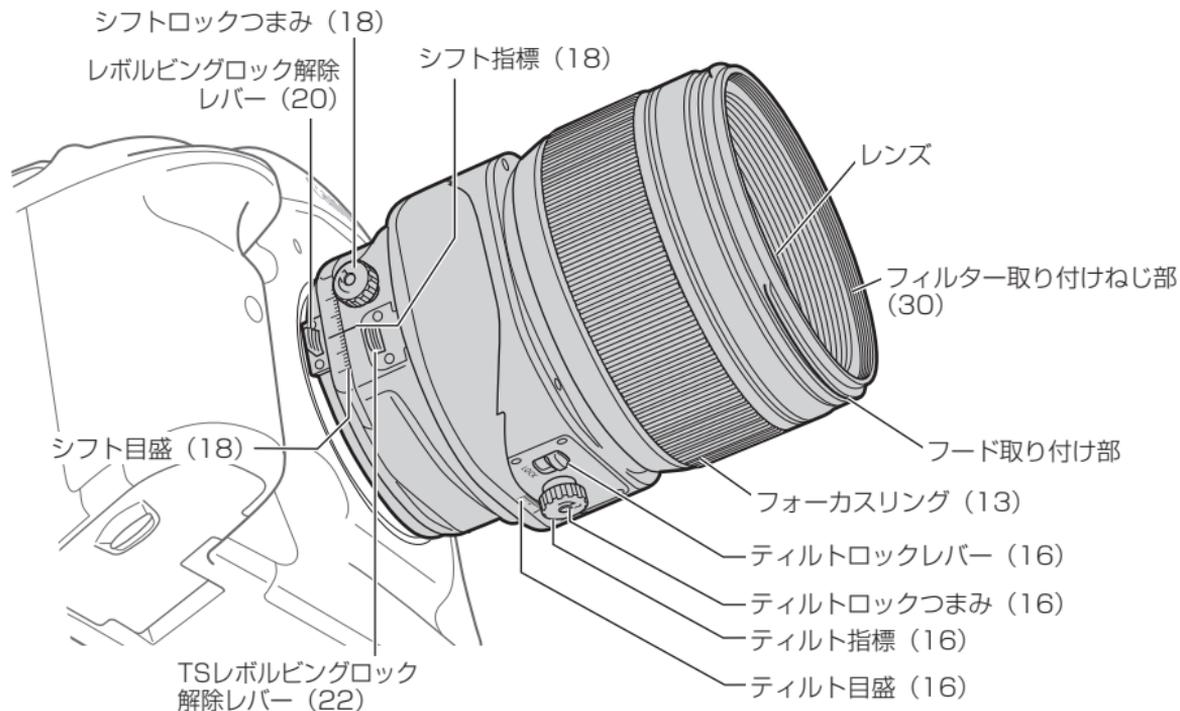
各部の名称 (TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACRO)



イラストは TS-E90mm F2.8L MACRO ですが、TS-E135mm F4L MACRO も各部の名称は同じです。

● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

各部の名称 (TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACRO)



イラストは下から見上げた図です。
イラストは TS-E90mm F2.8L MACRO ですが、TS-E135mm F4L MACRO も各部の名称は同じです。

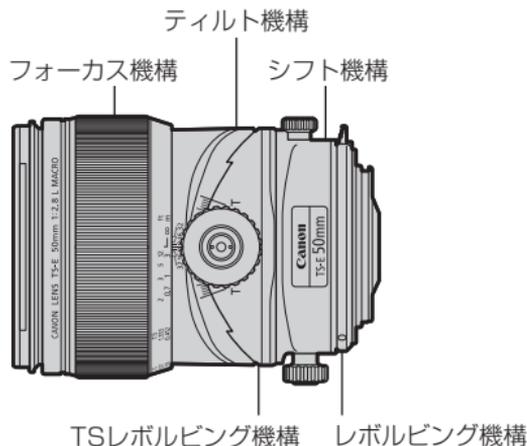
● (**) の**部は参照ページを示しています。

TS-E MACRO レンズの特長

キヤノンTS-E50mm F2.8L MACRO、キヤノンTS-E90mm F2.8L MACRO、キヤノンTS-E135mm F4L MACROは以下の特長があります。

- ティルトの範囲はTS-E50mm F2.8L MACRO が $\pm 8.5^\circ$ 、TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACROが $\pm 10^\circ$
- シフトの範囲は $\pm 12\text{mm}$
- ティルト・シフトした状態で0.5倍までの近接（マクロ）撮影が可能
- レボルビングにより、レンズ全体の方向を変えることができる
- TSレボルビングにより、シフトに対してティルトの作動角度を変えることができる

これらの機能の組み合わせにより多様な表現の撮影が可能となります。

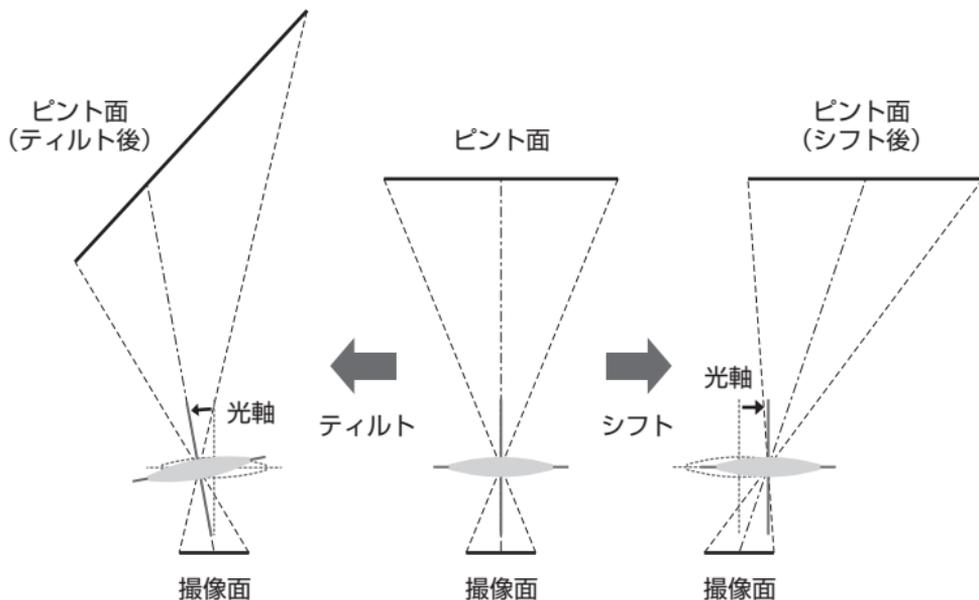


イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

TS-E MACRO レンズの特長

- レンズを着脱するときやレボルビング操作・TSレボルビング操作をするときは、必ずティルト・シフトしていない状態に固定してください。
ティルト・シフトしていない状態に固定する方法はP15、P17、P19をご覧ください。
- Digital Photo Professional を用いてレンズ補正（レンズ収差補正、デジタルレンズオブティマイザなど）を行う場合*、ティルトやシフトの量、レボルビングやTSレボルビングの設定によっては補正が適切に行われないことがあります。
* 対応するカメラ：EOS 6D Mark II（2017年8月現在）

ティルトとシフトの原理



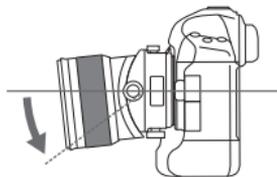
- ティルトはレンズの光軸を撮像面に対して傾けることによって、ピント面を傾けることができます。

- シフトはレンズの光軸を撮像面に対して平行に移動することによって、ピント面を平行に移動することができます。

ティルトの効果

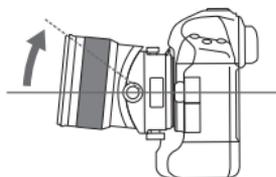
■ 花畑の撮影

● 作例1



- 図のようにティルト操作を行うと、被写界深度を深くする効果があります。手前から奥まで、花畑全体にピントを合わせることができます。

● 作例2



- 図のようにティルト操作を行うと、被写界深度を浅くする効果があります。手前の花のみにピントが合っており、それ以外をぼかすことができます。

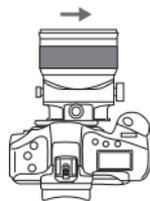
シフトの効果

■ 建物の撮影



- 通常のレンズで建物などを撮影した場合、建物の上部がすぼみませんが、カメラを建物と平行にしてシフト操作を行うと、建物のすぼまりを修正できます。

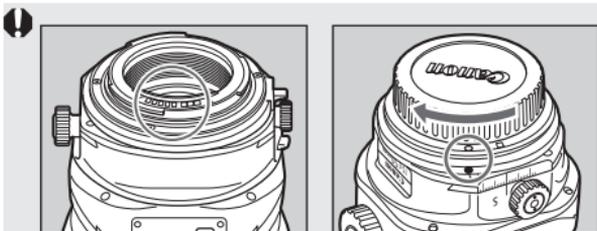
■ 鏡の撮影



- 表面に反射のある被写体を撮影する場合、被写体に写り込まない位置にカメラを移動してからシフト操作を行うと、構図を変えずにカメラの写り込みを防ぐことができます。

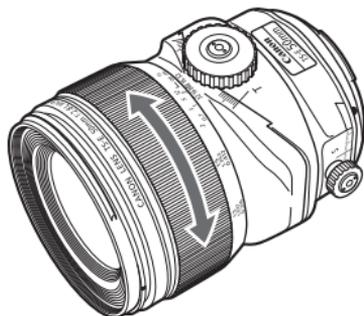
1. レンズの着脱

カメラにレンズを着脱する方法は、カメラの使用説明書をご覧ください。



- レンズを着脱するときは、必ずティルト・シフトしていない状態に固定してください。
- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いた場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、レンズキャップとダストキャップを付けてください。ダストキャップの取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標を合わせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

2. ピントの合わせ方



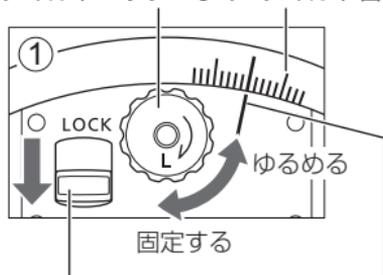
イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

このレンズは、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます（AF撮影はできません）。

- ティルト・シフト操作後、およびレボルビング・TSレボルビング操作後は、再度ピント調整を行ってください。
 - 距離目盛は、ティルト・シフトしていない状態でのみ有効です。
- ライブビュー撮影が可能なカメラの場合、液晶モニターの拡大画面を使用したピント合わせをおすすめします。

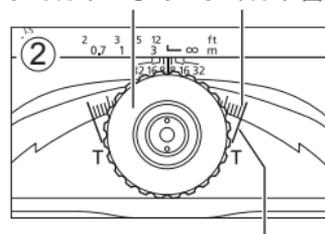
3. ティルト操作 (TS-E50mm F2.8L MACRO)

ティルトロックつまみ ティルト目盛

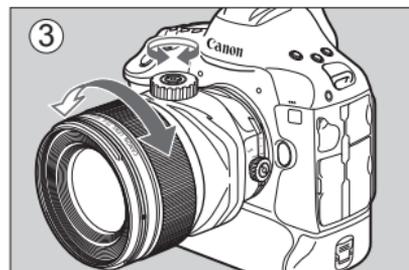


ティルトロックレバー ティルト指標

ティルトつまみ ティルト目盛



ティルト指標



イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

ティルト操作をするときは、ティルトロックレバーをLOCKと逆の方向にスライドし、ティルトロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。(図①)

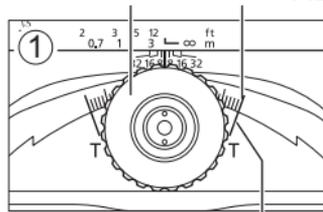
撮影時のティルト操作

- 1 ティルトつまみを回してティルト量を調整します。ティルト量は、ティルト目盛の太い線を基準に $\pm 8.5^\circ$ の範囲で調整することができます。(図②) (ティルト目盛はティルトロックつまみのところにもあります)
- 2 フォーカスリングを回してピントを調整します。(図③)
- 3 ティルトロックつまみを時計方向に回して固定してから撮影します。(図①)

● ティルトつまみは無理に回さないでください。故障の原因となります。

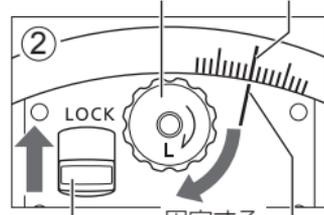
ティルト操作 (TS-E50mm F2.8L MACRO)

ティルトつまみ ティルト目盛の太い線



ティルト指標

ティルトロックつまみ ティルト目盛の太い線



ティルトロック
レバー

固定する
ティルト指標

イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

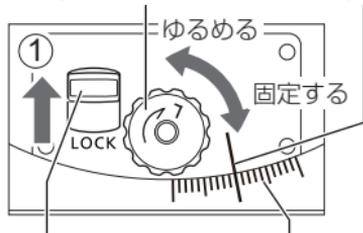
ティルトしていない状態に固定する方法

- 1 ティルトつまみを回して、ティルト目盛の太い線がティルト指標と一致する（クリックがある）位置にセットします。（図①）
- 2 ティルトロックつまみを時計方向に回して固定します。ティルトロックレバーをLOCKの方向にスライドすると、ティルトをロックすることができます。（図②）

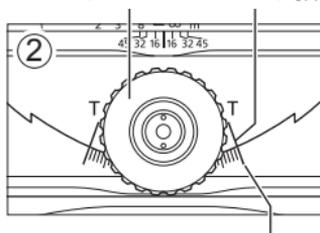
- ティルトロックレバーでティルトをロックしているときは、ティルトつまみは回さないでください。故障の原因となります。

ティルト操作 (TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACRO)

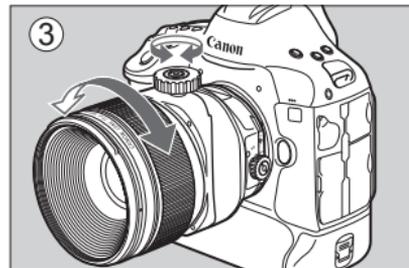
ティルトロックつまみ ティルト指標 ティルトつまみ ティルト指標



ティルトロックレバー ティルト目盛



ティルト目盛



イラストは TS-E90mm F2.8L MACRO です。

TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACROは、各部の配置が TS-E50mm F2.8L MACROと一部異なりますが、機能や操作方法は同じです。

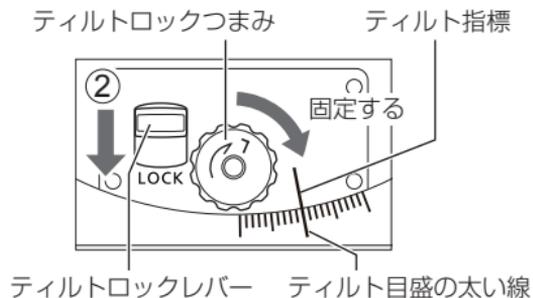
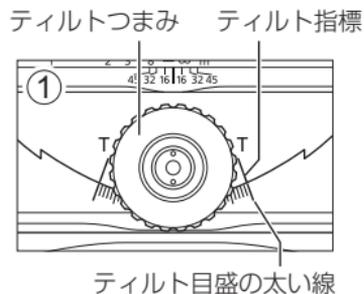
ティルト操作をするときは、ティルトロックレバーをLOCKと逆の方向にスライドし、ティルトロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。(図①)

撮影時のティルト操作

- 1 ティルトつまみを回してティルト量を調整します。ティルト量は、ティルト目盛の太い線を基準に $\pm 10^\circ$ の範囲で調整することができます。(図②) (ティルト目盛はティルトロックつまみのところにもあります)
- 2 フォーカスリングを回してピントを調整します。(図③)
- 3 ティルトロックつまみを時計方向に回して固定してから撮影します。(図①)

● ティルトつまみは無理に回さないでください。故障の原因となります。

ティルト操作 (TS-E90mm F2.8L MACRO、TS-E135mm F4L MACRO)



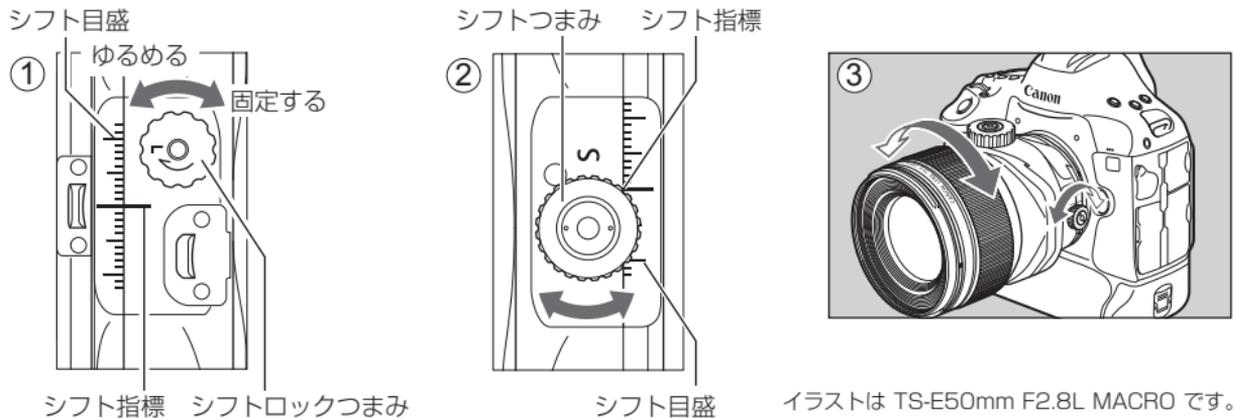
イラストは TS-E90mm F2.8L MACRO です。

ティルトしていない状態に固定する方法

- 1 ティルトつまみを回して、ティルト目盛の太い線がティルト指標と一致する（クリックがある）位置にセットします。（図①）
- 2 ティルトロックつまみを時計方向に回して固定します。ティルトロックレバーをLOCKの方向にスライドすると、ティルトをロックすることができます。（図②）

- ティルトロックレバーでティルトをロックしているときは、ティルトつまみは回さないでください。故障の原因となります。

4. シフト操作



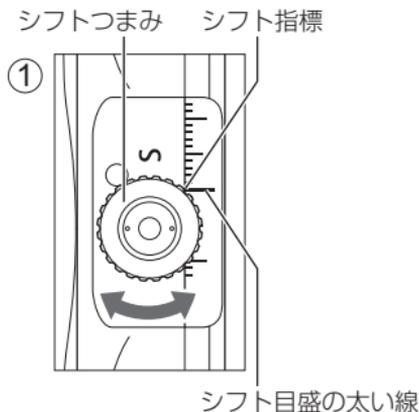
シフト操作をするときは、シフトロックつまみを反時計方向に回してゆるめます。(図①)

撮影時のシフト操作

- 1 シフトつまみを回してシフト量を調整します。シフト量は、シフト目盛の太い線を基準に±12mmの範囲で調整することができます。(図②) (シフト目盛はシフトロックつまみのところにもあります)
- 2 フォーカスリングを回してピントを調整します。(図③)
- 3 シフトロックつまみを時計方向に回して固定してから撮影します。(図①)

● シフトつまみは無理に回さないでください。故障の原因となります。

シフト操作



イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

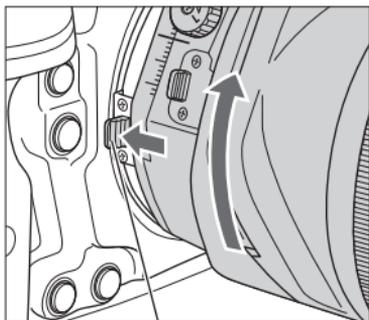
シフトしていない状態に固定する方法

- 1 シフトつまみを回して、シフト目盛の太い線がシフト指標と一致する（クリックがある）位置にセットします。（図①）
- 2 シフトロックつまみを時計方向に回して固定します。（図②）

● ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、シフト操作時に、レンズがカメラに接触する場合があります。

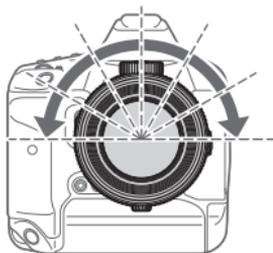
- シフト量が多いと、周辺光量の状態が画面の上下・左右で異なってしまふことがありますので、絞り込んで撮影することをおすすめします。
- シフトつまみに付属のキャップを装着して、シフト操作をしやすくすることができます。（P29）

5. レボルビング操作



レボルビングロック解除レバー

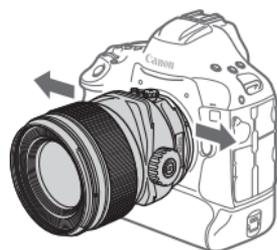
レボルビングにより、レンズ全体の方向を変えることができます。レンズをカメラに装着した状態で、レボルビングロック解除レバーをマウント方向に押しながらレンズ全体を回します。



レボルビングの範囲は $\pm 90^\circ$ です。 30° ごとにクリックがあります。 0° と $\pm 90^\circ$ の位置で固定されません。



レボルビングが 0° のときのシフト方向



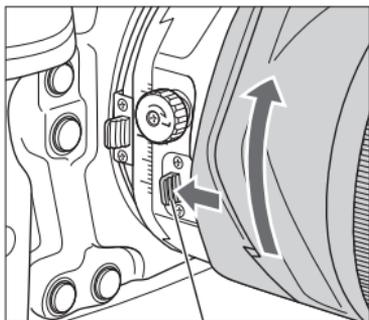
レボルビングが 90° のときのシフト方向

イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

レボルビング操作

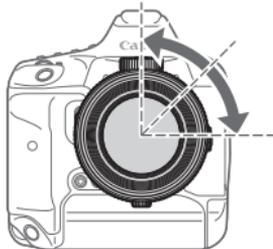
- レボルビング操作をするときは、必ずティルト・シフトしていない状態に固定してください。
 - レボルビング操作をするときは、シフトロックつまみが指に当たる場合がありますので注意してください。
 - ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、レボルビング操作をするときに、レンズがカメラに接触する場合があります。
-
- 撮影中の位置ずれを防ぐため、レボルビングはロックされた状態、またはクリックの位置での撮影をおすすめします。
 - Digital Photo Professionalを用いてレンズ補正（レンズ収差補正、デジタルレンズオプティマイザなど）を行う場合*、補正の誤差をおさえるため、レボルビングはロックされた状態、またはクリックの位置での撮影をおすすめします。
*対応するカメラ：EOS 6D Mark II（2017年8月現在）

6. TSレボルビング操作



—TSレボルビングロック解除レバー

TSレボルビングにより、ティルトとシフトの作動方向を直交から平行まで変えることができます。
レンズをカメラに装着した状態で、TSレボルビングロック解除レバーをマウント方向に押しながらティルト機構部を回します。



45° の位置にクリックがあります。
直交または平行の状態です。



TSレボルビングが直交のときのティルト方向とシフト方向



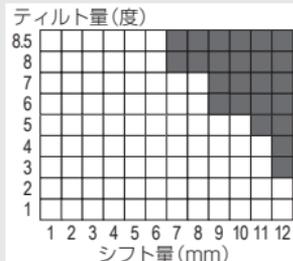
TSレボルビングが平行のときのティルト方向とシフト方向

イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

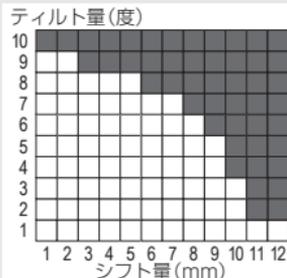
TSレボルビング操作

- TSレボルビング操作をするときは、必ずティルト・シフトしていない状態に固定してください。
- ティルトとシフトの作動方向を直交で併用する場合、またはティルトのみかシフトのみで使用する場合、このレンズによるケラレは生じません。
- ティルトとシフトの作動方向を直交以外で併用する場合、下図のグレーで示した範囲ではケラレが生じることがあります。例えばティルトとシフトの作動方向が平行で、ティルトとシフトをそれぞれ最大値にした場合です。ケラレが生じることがある条件で使用する場合は、撮影後の映像を確認しながら撮影することをおすすめします。

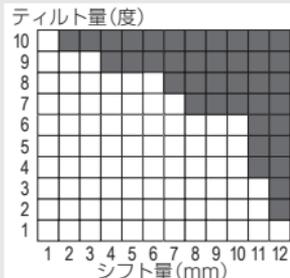
● TS-E50mm F2.8L MACRO



● TS-E90mm F2.8L MACRO



● TS-E135mm F4L MACRO



- 撮影中の位置ずれを防ぐため、TSレボルビングはロックされた状態、またはクリックの位置での撮影をおすすめします。
- Digital Photo Professionalを用いてレンズ補正（レンズ収差補正、デジタルレンズオプティマイザなど）を行う場合*、補正の誤差をおさえるため、TSレボルビングはロックされた状態、またはクリックの位置での撮影をおすすめします。

* 対応するカメラ：EOS 6D Mark II（2017年8月現在）

7. TS-E MACROレンズの露出設定

ティルト・シフトした状態ではレンズの光軸がずれるため、ファインダー撮影の自動露出では露出値に大きな誤差が生じることがあります。適正な露出設定のためには、次のいずれかの方法をおすすめします。

■ライブビュー撮影による露出設定

ライブビュー撮影の露出値を使用して撮影します。
ティルト・シフトの有無にかかわらず、近接(マクロ)撮影も含め、自動露出で撮影することができます。

■単体露出計による露出設定

単体露出計で得られる露出値を目安に、マニュアル露出で撮影します。
近接(マクロ)撮影をするときは、撮影倍率に応じた露出補正が必要です。単体露出計で得られた露出値に、次のページに示す表の露出倍数を加えて撮影します。

 ● いずれの露出設定の方法でも、撮影条件によっては適正露出にならないことがあります。できるだけ露出を変えて撮影するか、撮影後の画像を確認しながら撮影することをおすすめします。

TS-E MACROレンズの露出設定

● TS-E50mm F2.8L MACRO

撮影倍率	1:5	1:3	1:2
実効FNo.	3.3	3.4	3.8
露出倍数 (段)	1/3	2/3	2/3
	1/2	1/2	1

上段：1/3段表示

下段：1/2段表示

● TS-E90mm F2.8L MACRO

撮影倍率	1:5	1:3	1:2
実効FNo.	3.4	3.8	4.3
露出倍数 (段)	1/3	2/3	1
	1/2	1	1

上段：1/3段表示

下段：1/2段表示

● TS-E135mm F4L MACRO

撮影倍率	1:5	1:3	1:2
実効FNo.	4.8	5.2	5.8
露出倍数 (段)	1/3	2/3	1
	1/2	1/2	1

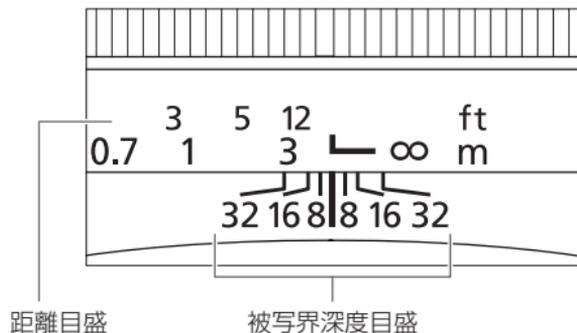
上段：1/3段表示

下段：1/2段表示

TS-E MACROレンズの露出設定

- カメラの機種*や設定によっては、標準露出にならなったり、露出ムラが発生することがあります。上記の現象は、シャッター速度を遅くすると改善することがあります。撮影後の画像を確認しながら撮影することをおすすめします。
 - * ・ 下記のカメ​​ラは初期から上記の現象を改善したファームウェアになっています。
EOS 6D Mark II
 - ・ 下記のカメ​​ラはファームウェアを更新することによって上記の現象を改善することができます。
EOS 5D Mark IV、EOS 5D Mark III、EOS 5DS、EOS 5DS R、EOS-1D X Mark II、EOS-1D X、EOS 6D
- ファームウェアの詳細についてはキヤノンのホームページで確認してください。

8. 被写界深度目盛



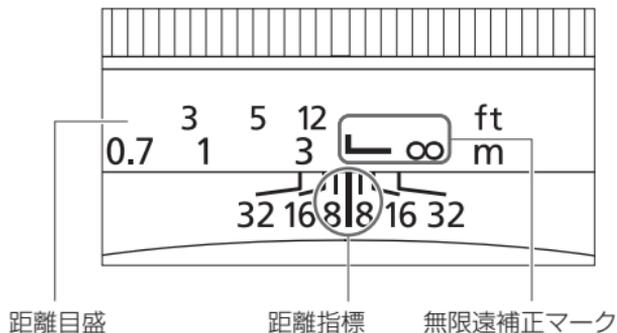
ピントを合わせた被写体の前後で鮮明に写る一定の範囲を被写界深度といいます。被写界深度の範囲は距離目盛下部の被写界深度目盛ではさまれた範囲です。

目盛上の数値は絞り値を示しています。



- 被写界深度目盛は、ティルト・シフトしていない状態でのみ有効です。
- 被写界深度目盛はあくまでも目安です。

9. 無限遠補正マーク



イラストは TS-E50mm F2.8L MACRO です。

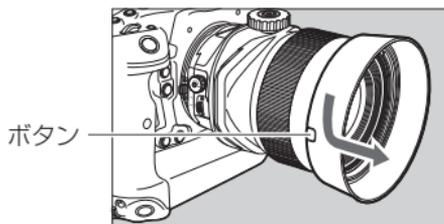
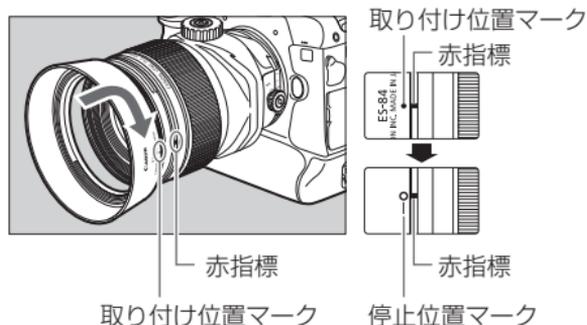
温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠 (∞) 位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、距離目盛のLマークの縦線と距離指標が合うところです。



- 無限遠の被写体に正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像で確認しながらフォーカスリングを回してください。

10. フード

レンズフード（ES-84、ET-88）は、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



イラストは TS-E50mm F2.8L MACROです。

● 取り付け

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、フードを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

● 取り外し

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

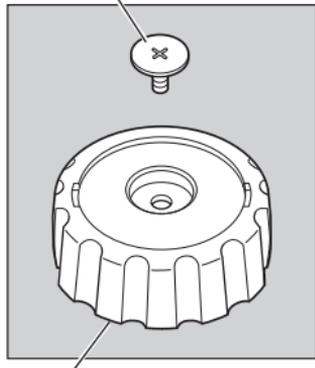
- フードだけではレンズに入射する有害光線をカットする効果が少ないので、板などを併用することをおすすめします。

11. シフトつまみ用キャップ

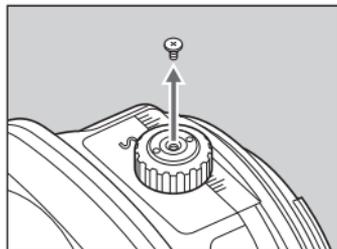
付属のシフトつまみ用キャップをシフトつまみ（P18）に装着すると、シフト操作がしやすくなります。

ただし、ストロボ内蔵タイプのEOSカメラでは、レンズの着脱時、シフト操作時およびレボルビング操作時にこのキャップが接触することがあります。注意してください。

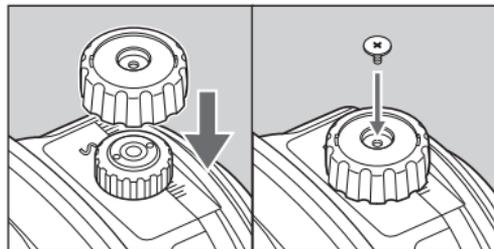
取り付けねじ（ねじ長さ3mm）



シフトつまみ用キャップ



1 シフトつまみのねじを外します。



2 つまみにキャップを押し込んで取り付け、付属のねじで固定します。

- キャップの固定には、必ず付属のねじ（ねじ長さ3mm）を使用してください。
- 外したねじ（ねじ長さ2.2mm）はキャップの固定には使用できません。外したねじは、キャップを使用しないときに必要になります。保管しておいてください。
- ねじを回すときには精密ドライバー（プラス）を使用してください。
- シフトつまみは無理に回さないでください。故障の原因となります。

12. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。

- フィルターは1枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C Bを使用してください。
TS-E50mm F2.8L MACROと
TS-E90mm F2.8L MACROは77mm
TS-E135mm F4L MACROは82mm
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外した状態で行ってください。

13. クローズアップレンズ（別売）

- **TS-E50mm F2.8L MACRO**
クローズアップレンズ500D（77mm）を使用して拡大撮影ができます。
撮影倍率は0.10～0.58倍です。
クローズアップレンズ250Dは使用可能なサイズがありません。

- **TS-E90mm F2.8L MACRO**
クローズアップレンズ500D（77mm）を使用して拡大撮影ができます。
撮影倍率は0.18～0.69倍です。
クローズアップレンズ250Dは使用可能なサイズがありません。

- **TS-E135mm F4L MACRO**
クローズアップレンズ250D、500Dは使用可能なサイズがありません。

14. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

● TS-E50mm F2.8L MACRO

	撮影距離範囲 (mm) (ワーキングディスタンス)		撮影倍率 (倍)	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	242 (57)	371 (216)	0.74	0.23
EF25 II	224 (44)	256 (101)	1.00	0.48

● TS-E90mm F2.8L MACRO

	撮影距離範囲 (mm) (ワーキングディスタンス)		撮影倍率 (倍)	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	365 (162)	821 (648)	0.64	0.15
EF25 II	352 (134)	493 (305)	0.82	0.32

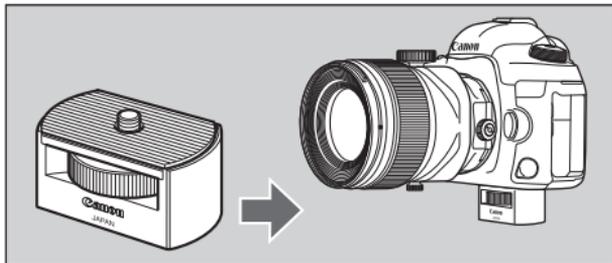
エクステンションチューブ (別売)

● TS-E135mm F4L MACRO

	撮影距離範囲 (mm) (ワーキングディスタンス)		撮影倍率 (倍)	
	近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	459 (263)	1716 (1521)	0.62	0.09
EF25 II	443 (232)	943 (733)	0.77	0.20

15. TS-E用三脚アダプター（別売）

カメラの機種によっては、カメラを直接三脚に取り付けるとティルト・シフト・レボルビング機能が使用できない場合があります。その場合はカメラの三脚ねじ穴に別売のTS-E用三脚アダプターを取り付けてからカメラを三脚に取り付けてください。



イラストは TS-E50mm F2.8L MACROです。

主な仕様

	TS-E50mm F2.8L MACRO	TS-E90mm F2.8L MACRO	TS-E135mm F4L MACRO
焦点距離・明るさ	50mm F2.8	90mm F2.8	135mm F4
レンズ構成	9群12枚	9群11枚	7群11枚
最小絞り	F32	F45	F45
画角 (通常)	水平	40°	22° 40'
	垂直	27°	15° 10'
	対角	46°	27°
最短撮影距離 (ワーキングディスタンス)	0.273m (89mm)	0.390m (200mm)	0.486m (303mm)
最大撮影倍率	0.5倍		
画界	約72mm×48mm		
ティルト量	±8.5°	±10°	
シフト量	±12mm		
ティルト目盛表示	1° ごと		
シフト目盛表示	1mmごと		
レボルビング機構	-90°、0°、+90° の位置でロック 30° ごとにクリック		
TSレボルビング機構	直交、平行の位置でロック 45° にクリック		
フィルター径	77mm		82mm
最大径×長さ	φ86.9×114.9mm	φ86.9×116.5mm	φ88.5×139.1mm
質量	約945g	約915g	約1110g
フード	ES-84		ET-88
レンズキャップ	E-77II		E-82II
ケース	LP1219		LP1424

主な仕様

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは表示寸法+24.2mmになります。
- 大きさ・質量は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。
- マクロリングライトMR-14EX II、およびマクロツインライトMT-24EXの使用はできません。
- 絞り値はカメラ側で設定します。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ
canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター
050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00～18:00
(1/1～3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon